



勝ち負け以上の収穫があったと語るニッポントルネード西田辰巳ヘッドコーチ



「彼らにはこれから来年以降も参加してほしい」と語るバンクーバータイタンズマネージャー兼ヘッドコーチのデイビット・ペトロジロ氏

での敗北となってしまった。しかし、トルネードの選手たちのどんなに劣勢であろうとも決して諦めること無く戦う姿に、バンクーバータイタンズマネージャー兼ヘッドコーチのデイビット・ペトロジロ氏は「通常点差が離れてくると、選手たちの士気が下がり手を抜いたようなプレーをするのだが、差をつけられても最後まで全力で戦い続けた選手たちに感動した」と称賛の言葉を送った。

日本バスケット界の道を開く

近年、野球をはじめ多くのスポーツにおいて世界レベルの日本人選手というのは珍しくない。しかしバスケットボールに関しては、アメリカのNBAなどの舞台で活躍する日本人選手というのはほとんどいないのが現状である。今回のニッポントルネードのIBL参加は、そんな日本バスケットボール界が世界の舞台に上がっていく為の第一歩であると言えるだろう。

ニッポントルネードの西田辰巳ヘッドコーチは、「今回IBLに参加することで日本人の身長や外国人選手との技術の差といったものをこまめにみる事が出来た。また、そのハンデを克服する方法や日本でそういった技術などを育成する方法も見つけることが出来た」と語る。日本ではこれまで海外

の選手と試合をする機会が無かったために、そういった細かい点の分析は難しかった。その点で今回のIBL参加は勝敗以上に今後に向けての収穫があったことが大きいようである。「日本人は体が小さい」。バスケットに限らず、スポーツ界ではよく日本人はそう言われてきた。だが、今回彼らがIBLに参加して分ったのは、それは決して諦めなければならない問題では無いということだ。「日本人は個々の能力で負けている。それは環境で負けているからだ」。そう語るのはニッポントルネードの梅田智之選手。アメリカ・カナダの選手が高い身体能力や多彩な技を持っているのは、彼らがそういったトレーニングや練習をしているか



試合前、日本・カナダ・アメリカの国歌を歌う中垣聖子さん

らであり、裏を返せば、日本もそれらを取り入れることで、アメリカ・カナダの選手に負けない力を手に出来るということである。さらに、日本人選手は精神面の強さではむしろ海外の選手よりも優れている。ニッポントルネードの選手たちは皆、日本人の強みとは「和」そして相手を気遣う「心」であると答えた。西田氏によると、逆にアメリカ・カナダではそれを教えるのが一番難しいのだという。

今後、乗り越えるべき壁は多くあるものの、今回彼らがIBLに参加して得たものは、日本バスケットボール界にとって大きな財産となることだろう。いずれバンクーバーでも日本人バスケットボール選手の名が知れ渡る日が来るかも知れない。

(取材 前田一也)



ハーフタイムには神輿の会「楽一」による獅子舞が披露された



試合会場には大勢の人がニッポントルネードの応援に駆けつけ、アウェイで戦う選手たちの力となった



確かに身長差は大きい。これからの課題ではあるが、今回の初参加により解決方法を見つけることができると確信を持ってたと監督を初め、多くの選手が語った。(写真提供 Vancouver Sports Pictures)